



と



ニュースステーションからニュース23へ流れる、それが長い間我が家の夜の定番コースだった。ニュースステーションを「柔」とすれば23は「堅」、「外」とすれば「内」というようにふたつの番組はそれぞれの特色を持っていた。そして筑紫さんの真面目な人柄は堅く内向的な番組イメージとよく似合っていた。

全てをついミスチルフアンというスタンスから見るのは、まあどうかなと思わないではないけれど、筑紫さんのことを思うとき、やはり一緒に思い出すのはミスチルのこと。

ここでは筑紫さんとミスチルとの関わりだけに焦点をあてて23の歴史を振り返ってみたいと思う。

ニュース23が始まったのは1989年10月2日。そして筑紫さんとミスチルとの関係は2004年2月20日「マンデープラス」から始まった。振り返ってみると23の歴史の中のほんの後半数年の関わりだけだったのかと意外な気持ちになるが、筑紫さんと桜井くんの関係になると2001年4月30日TBS開局50周年地雷ゼロキャンペーンまで遡る。坂本龍一氏の呼びかけに賛同した人たちが集まりN.M.Lという特別ユニットを結成しCDを制作。収益は地雷除去のために使われた。テレビ放送は「地雷ZERO 21世紀最初の祈り」と題しこの放送の司会を筑紫さんが務めた。



ZERO LANDMINE

2時間半に渡る特番は前半はダイアナ妃の地雷廃絶運動を追い、後半は世界各地を中継で結び、それぞれの国の民族音楽から始まりラストをキャンペーンソング「ZERO LANDMINE」が飾った。

音楽という媒体を通して世界が繋がっていることを実感できた素晴らしい番組だったと思う。もし見ることができるならもう一度見たい番組のひとつだ。

「ZERO LANDMINE」はこの一時期ニュース23のエンディングテーマとしても使われていた。



これが桜井くん

そして2004年のミスチルの23初登場へと繋がっていくのだが、その間のミスチルとは言えば、2001年のZEROLANDMINE参加から2002年の病気（小脳梗塞）を経て、坂本龍一、小林武史とApBankを設立している。4月23日の新聞はこれを大きく取り上げ、もちろん23でも報道されている。ミスチル(Bank Band)の社会的な活動が多くなっていけばニュース番組との関わりも多くなるのは当然なことだと思う。それがミュージシャンにとってプラスなのかマイナスなのかはまた別の話だと思うが、桜井くんがこういう方向に行くことは至極自然なことに思えるし、こういう道を進むために2002年の病気でさえも、運命と呼ぶものが用意していたのではないかと思える。



そして2004年2月20日
23初登場。



このとき桜井くんは番組の冒頭から登場して苦手なおしゃべりにも挑戦している。「ニュース番組は初めて？」と聞かれ「もちろん」と答え「番組を汚さないように」と付け加えている。

番組後半の「マンドープラス」で歌われた「タガタメ」という楽曲は前年の2003年、ラジオのみの配信でスタート。テレビで歌われたのは2008年現在この放送一回のみだ。オーケストラを従えた壮大な演奏は、今まで観てきた多くのミスチル出演番組の中で最高のものと密かに思っているし、ニュース番組の中で歌われてこそ意味も大きかったと信じている。



筑紫さんに「メッセージ性が非常に強いが」と問われ、「ニュース番組を見ていて思いが溢れてそのまま歌になった」と答えている。

とにかくラジオ配信だけであまりファン以外には知られていなかった歌をテレビという全国区で歌わせてくれた筑紫さんに大いに感謝している。

そして同じ年の10月4日。ニュース2315周年企画「WAR AND PEACE」が



カメラは一定のアンクルでときに引きときにアップに人々を映し出す。森林伐採業の男性からの自然への呼びかけから始まり、ニューヨーク9・11で夫を失った女性、太平洋戦争で義兄が戦死した65歳の女性、川崎在住の14歳の中学生もいた。



放送された。それは坂本龍一氏の曲「WAR AND PEACE」のために平和への祈りをこめた日本語詩を視聴者から募集するという試みだった。この呼びかけに答え全国から2,305通の応募があり14才から65才までの19篇の詩が選ばれた。原則としてその人それぞれの生きる風景の中で撮影を行おうとスタッフは日本全土を飛び回った。



それらの人たちの中に「アルバムの中ピースサインで映るたくさんの僕がいた。ああもっと誠実にもっと切実にたくさんのピースサインを刻んでおけばよかった。もっと誠実にもっと切実にこれからはピースサインを刻んで行こう」と語った練馬区在住、34才、ミュージシャンの桜井くんがいた。

ニュース23では恒例の楽しい企画もたくさんあった。雑誌「広告批評」の天野祐吉さんと筑紫さんがアットホームな雰囲気の中、年間ベストCMを選出するCM大賞もそのひとつだった。

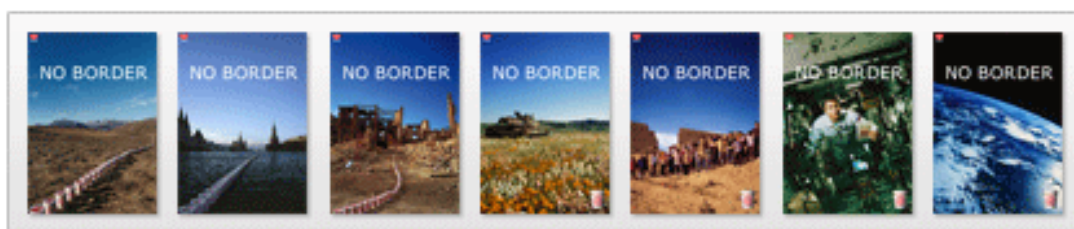


2004年度のCM大賞発表は12月10日「金曜深夜便」にて放送された。この年の第1位はadidas japan。ご記憶のかたもいらっしゃるかと思うけれど、モハメド・アリとその娘がリングで戦うCMだ。2位は毎年のように上位に入るアップル社のipod Dance編。4位には伊衛門が入賞していた。

そして9位が日清食品カップヌードル「NO BORDER」編だった。人間同士の対峙を描いた「消える国境篇」にはじまり、争いの象徴“戦車”と平和の象徴“花”を対比させた「FLOWER篇」、イランの子供たちの溢れる笑顔に平和の尊さを重ねた「笑顔篇」が対象CMだった。反戦を色濃く映すこのCMの姿勢について筑紫さんは熱弁を奮ってくれ、CMに使われた楽曲についても高く評価してくれたと思う。



それがミスチルの「タガタメ」「and I love you」「僕らの音」だった。



明るく2005年3月28日、この日から23のテーマ曲が変わった。

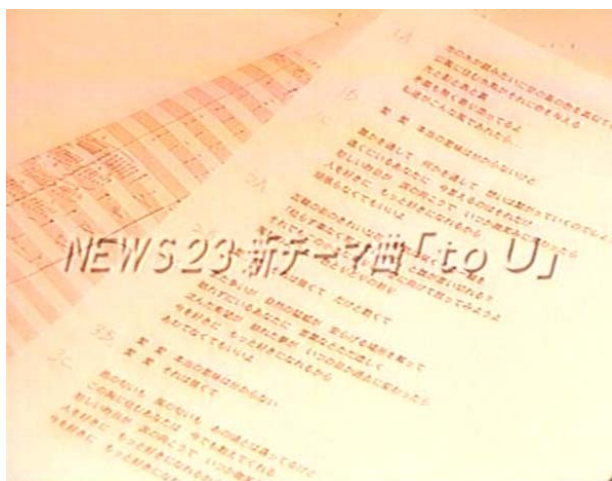
坂本龍一氏から引き継いだ新しいテーマ曲はAp Bankから生まれたBank Bandが歌う「toU」だった。



5月2日「マンドープラス」にて、Bank Bandがスタジオで「toU」を披露。

Ap Bankの活動についても筑紫さんと語り合い、かれらたちのような存在がある限り人の心は荒廃するばかりではないと信じられた一夜だった。

筑紫さんや番組スタッフが曲を聴き、メロディや歌詞の内容が番組のコンセプトに合致しているということでテーマ曲に採用されたと Wikipedia には書かれている。結局「t o U」は 2005 年 3 月 28 日から 2008 年 3 月 31 日までのちょうど 3 年間、**23**のテーマ曲となった。



2006 年 9 月の番組改編に伴いテーマ曲がピアノバージョンに変更された。それまでは天気予報の BGM にまで通常の歌バージョンが使われていて、そこには筑紫さんの意志が多分に反映されていたのかなと勝手に推測している。井上陽水、坂本龍一氏が 8 年づつ担当した過去 16 年を思うと 3 年という期間は短い気もするが、

メインキャスターが変われば番組の色も変わる。2008 年の 4 月からはメインキャスターは後藤謙次さんとなり、番組タイトルから「筑紫哲也」の名前がはずされた。筑紫さんの名と共にテーマ曲としての使命も終わりを迎えたと思えばそれでよかったと思える。

また「t o U」はニュース **23** のテーマ曲であると同時に 2005 年からつま恋で開催されている「A p B a n k F e s」のテーマ曲でもあるというもうひとつの使命も与えられていた。



2005 年 7 月 22 日「**金曜深夜便**」では「A p B a n k それから」と題して第 1 回目のフェスの模様が放送された。

初回のこの年はゲストに井上陽水氏がおおり、**23**の初代テーマ曲「最後のニュース」が桜井くんと共演で歌われた。



やはり**23**と縁が深かった忌野清志郎氏も出演予定だったが、ガンの闘病のため出演できなくなり、Bank Bandが清志郎氏の代わりに観客と一緒に氏の歌を歌ったりもした。そしてフェスのラストは「t o U」を数多くの参加アーティストと共に歌い、歌はもうひとつの使命をきちんと果たした。



2006年7月24日「マンドープラス」は「ApBankそれから」の第2回目の放送。筑紫さんと小林武史氏の対談もあり軌道に乗りつつあるApBankの活動や、小林武史が融資先を訪ねる姿も紹介された。地元横浜みなとみらいのレンタサイクル、ハマチャリもApBankの融資で運営されている。

そしてこの日、「t o U」が再びスタジオにて歌われた。7月19日はシングル「t o U」の発売日。CDの収益はすべてApBankの活動資金に充てられる。筑紫さんは「なぜ**23**テーマ曲になって1年半後の今発売するのか？」という質問もされていたと思う。



フェスで皆で歌われる「t o U」とはまた違う「t o U」を**23**で聴くことができるのはとてもうれしいことだった。深夜という時間帯はいろんなものが素直に心に入ってくるのかもしれない。

「eco-reso (エコレゾ、eco-resonance の略) =無理なくポジティブなエコ意識を共振させていこう」をコンセプトにした野外フェスは今年で4年目を迎えた。去年は台風でたった一日だけの開催となってしまったが、そういうマイナス要素のアクシデントも楽しめる力をかれらは身につけていっているようだ。そうやって成長していくためには出会ったいろいろな人たちの支えが不可欠であっただろうと思う。



それから今に至るまで、2007年、2008年、つま恋でApBankフェスは開催されたが、ニュース23で「ApBankそれから」の第3回目は放送されることはなかった。3年目のフェスが開かれる少し前になる2007年5月14日、多事争論のコーナーをオープニングで行い、そのとき筑紫さん自身から初期の肺ガンであることが公表された。

翌2008年、その日11月7日は息子の誕生日だった。突然知らされた筑紫さんの死の報道には胸がズキンと痛んだ。いつか23に帰ってくるものだと思い込んでいたようだ。あれからさまざまな追悼番組が放送され筑紫さんという人の大きさを改めて思ったりもした。追悼番組では井上陽水、坂本龍一、忌野清志郎氏など縁あるミュージシャンのコメントも多かった。ミスチルから



のコメントがないことを不思議に思ったりもしたが、いずれどこかでこのときの桜井くんの心情に触れることがあるだろうと思っている。23という番組はミュージシャンを取り上げることも本当に多かった。ミスチルのことしか書かなかったが、歌手をやめ故郷沖縄で暮らすその後のCoccoを追った特集もとてもよかった。彼女もまた素晴らしいミュージシャンだと思う。

桜井くんは前々から23が大好きだと発言していた。早寝早起きのかれはどうやらビデオを撮って23を見ていたらしい。当時のサブキャスター渡辺真理が好きだったとの噂もあるが、見続けている間に筑紫さんの人柄にハマったのだと思われる。一緒に仕事できたことはかれにとって本当に幸せなことだったと思う。23という番組そのものも来年の3月に終了することが決定している。時代を映したひとつのニュース番組が終わりを告げる。



どんなに惜しまれる番組にも終わるときはやってくるし、どんなに惜しまれる人であっても、人には必ず死というものがやってくる。でもその志は心の中に残るだろうし、その志を継ぐ人たちが必ず現れると信じている。

こここのころのミスチルの歌には「ありがとう」「さよなら」という言葉がやけに多い。自然に溢れ出る言葉の中でかれは出会ってきたいろいろな人たちに感謝や別れを

伝えているのかもしれない。「ありがとう」「さようなら」そしてきっと「また会おう」と。

参考資料：ニュース23HP、Wikipedia

DGにおける関連資料項目：vol. 26、vol. 33、vol. 46 —表紙は語る

vol. 34—恋まつつま恋 vol. 38—ミスチルぱがぼんど